

1, 臨床研修制度の歴史的背景

手術中に出血死
産婦人科医起訴

福島県大藤町の私立大野病院で2004年12月、帝王切開の手術中に同県内の女性(当時28歳)が出血死

ショックで死亡した事故で、福島地検は10日、手術を執刀した産婦人科医師の加藤完彦容疑者(38)を業務上過失致死と医師法(異状死体の届け出義務)違反の罪で福島地裁に起訴した。

起訴状によると、加藤容疑者は、胎盤が子宮に癒着し、大出血する可能性を認識していたにもかかわらず、本来行いつべき子宮摘出

などを行わず、胎盤を無理にはがして大出血を引き起こしたとされることで、医師法で定められた24時間以内の警察への届け出をしなかったとされる。

(読売新聞2006(H18)3.11)

杏林大医師を在宅起訴

割りばし事故 東京地検「男児救えた可能性」

割りばしがたて刺さると過失を認めないが、医師の過失を認め、男児が死亡した事故で、東京地検は10日午後、杏林大産科婦人科医師加藤完彦容疑者(38)を業務上過失致死の罪で在宅で起訴した。同地検は、多数の医師

医師のしるしの性根をもつて過失を治療して、おぼやかなく、医師が死傷で死ぬことはなかった。命が助かる可能性十分あった」と起訴した。男児は89年7月10日、綿

「割りばし事故」で起訴された加藤完彦容疑者(38)は、業務上過失致死の罪で在宅で起訴された。同地検は、多数の医師

あとの型は、大出血をうけて、手術中に死亡したと見られる。加藤容疑者は、手術中に出血を止めることができず、胎盤を無理にはがして大出血を引き起こしたとされる。加藤容疑者は、胎盤が子宮に癒着し、大出血する可能性を認識していたにもかかわらず、本来行いつべき子宮摘出

2002年(平成14年)8月3日 土曜日 東京 11

遺族「大きな壁越えた」

「割りばし事故」で起訴された加藤完彦容疑者(38)は、業務上過失致死の罪で在宅で起訴された。同地検は、多数の医師

あとの型は、大出血をうけて、手術中に死亡したと見られる。加藤容疑者は、手術中に出血を止めることができず、胎盤を無理にはがして大出血を引き起こしたとされる。加藤容疑者は、胎盤が子宮に癒着し、大出血する可能性を認識していたにもかかわらず、本来行いつべき子宮摘出

(朝日新聞2000(H12).3.23)

患者取り違え手術で起訴

福島県大藤町の私立大野病院で2004年12月、帝王切開の手術中に同県内の女性(当時28歳)が出血死した。手術を執刀した産婦人科医師の加藤完彦容疑者(38)を業務上過失致死と医師法(異状死体の届け出義務)違反の罪で福島地裁に起訴した。

起訴状によると、加藤容疑者は、胎盤が子宮に癒着し、大出血する可能性を認識していたにもかかわらず、本来行いつべき子宮摘出

(朝日新聞2002(H14).8.3)